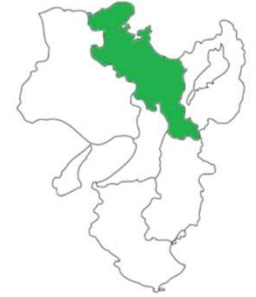


ライブ配信による「食育シンポジウム」の開催

事業実施主体:京都市

京都市



- 「食育シンポジウム」を新型コロナウイルス対策の観点からライブ配信で開催。
- 基調講演では、ヒトが食を介したコミュニケーションとともに社会を発達させてきたことなど私達が生きるうえで欠かせない「食」の大切さを再確認する機会となった。
- また、パネルディスカッションでは、京に根付いている多様な文化を背景とした伝統的な料理や作法など京の食文化の魅力の継承や栄養バランスに配慮した食生活の実践への関心を高めるとともに、理解を一層深める機会となった。

【取組の内容】

○食育シンポジウムの開催

テーマ: withコロナ社会の食を考える

・開催日:令和2年8月1日(土)

・開催場所:京都リサーチパーク(ライブ配信)

・参加者:一般府民 383名(視聴者)

・取組概要

【基調講演】

「食の進化とコミュニケーション:ポストコロナの時代を見据えて」

講師:山極 壽一氏 (京都大学総長)

【パネルディスカッション】

コーディネーター

佐藤 洋一郎氏

(京都府立大学文学部特別専任教授)

パネリスト:いしい しんじ氏(作家)

大原 千鶴氏(料理研究家)

松山 大耕氏

(妙心寺退蔵院 副住職)

山極 壽一氏

京都大学総長 山極氏による「食の進化とコミュニケーション:ポストコロナの時代を見据えて」と題した基調講演と京都ならではの食に携わる多彩なパネリスト4名による「withコロナ社会の食を考える」をテーマにしたパネルディスカッションを実施した。



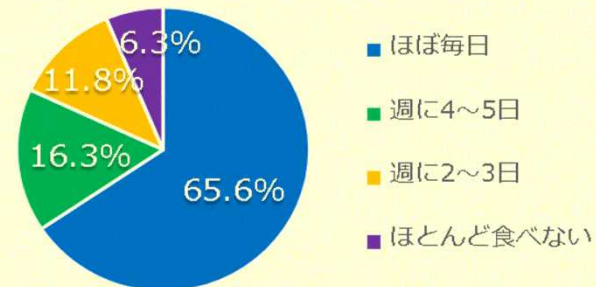
【取組の成果】

- 参加者から「食」や「料理」の話が興味深く、食生活の変化の問題を考えたいなどの感想があり、「食」の大切さを再認識し、京都の食育の推進を一層深める機会となった。
- 京の食文化の魅力を継承し伝えることや栄養バランスに配慮した食生活の実践への意識や理解が高まる取組となった。
- 食育シンポジウムをライブ配信するとともに、映像を公開し、ホームページやSNSを活用し、紹介したことで、府民を中心に広く普及啓発が図られる取組となった。

【事業目標】

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合

現状値 74.5% → 取組実施後 81.9%(目標値 74.5%)



※「ほぼ毎日」「週に4~5日」を合わせた割合